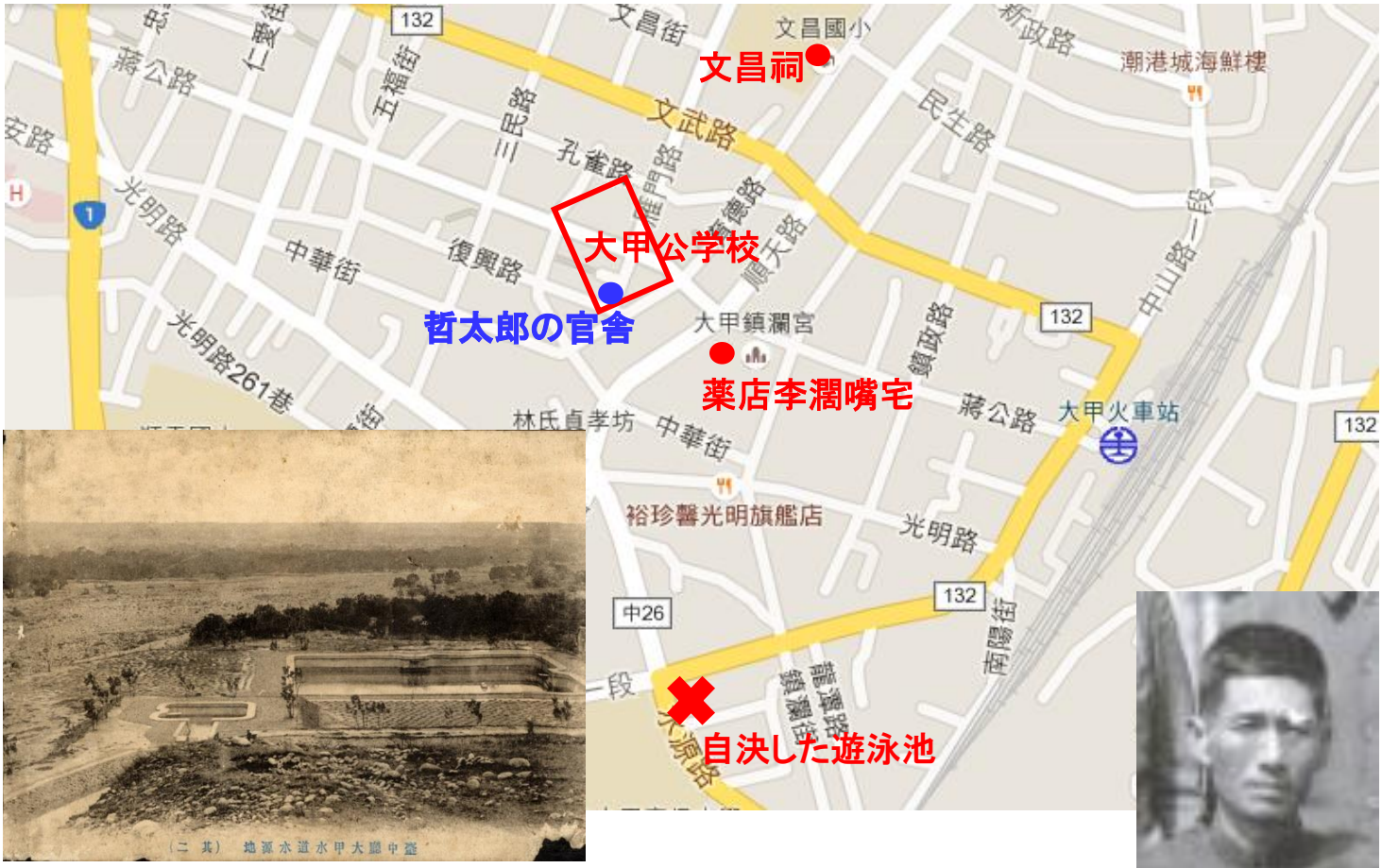
16　入水自決



大正10(1921)年頃の遊泳池一帯
「大甲老照片専輯二」引用

遺体搬送を目撃した当時国語師範学校学生　王國楨　T9卒

自決した遊泳池「大甲村庄史」（提供黄經業）引用

遺体をかついだ大甲公学校 小使 李天送

大正13（1924）年12月29日、哲太郎はいつものように4時に起き、羽織袴の正装で、女中の袖に「出掛けてくる」と云って、遊泳池（大正13年7月完成）に向かいました。そして遊泳池の堤に立ち、履物をそろえ、およそ15キロの大石を身体にくくりつけて池に入り自決したのです。池の管理人が遺体を発見し、学校へ連絡。その時の状況について、教え子の王國禎は、「私は鎮蘭宮前で薬店をしている叔父の李濶嘴（り かつし）宅に帰省していました。その日は日曜日の朝で公学校の李天送、陳金本らが志賀先生の遺体をかついで大甲街に戻ってきたところに遭遇しました。町民は震撼し、先生の死はまたたくまに街中をかけめぐったのです」と話しています。